

# 血液検査の参考基準値と検査項目の説明

第8版

- 1) ここに記載された血液検査の基準値は総合病院国保旭中央病院での基準値です。
- 2) 基準値は健康である多くの人が含まれる範囲で、施設によって多少異なります。  
血液検査の結果は年齢・性別・食事・運動など、いろいろな条件で変動します。  
この値を外れたものが即疾患の有無を示すものではありません。
- 3) ここに掲載してある検査項目の説明や病名は一般的なものであり、すべての患者様に当てはまるわけではありません。  
病気の診断は血液検査だけでなく、診察所見や他の検査とあわせて総合的に判断します。
- 4) ご自身の検査結果について不明な点や掲載されていない項目については、担当医にご相談下さい。

2023年8月

	検査項目	名称	基準値	単位	説明
蛋白	TP	総蛋白質	6.6~8.1	g/dL	TPとは血液中に含まれる蛋白質の総量。 蛋白質の中で最も多く含まれているのがアルブミンです。慢性肝炎や肝硬変などで高値、栄養不良で低値となります。
	ALB	アルブミン	4.1~5.1	g/dL	
	AST(GOT)	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (グルタミン酸オキサロ酢酸トランスアミナーゼ)	13~30	U/L	心筋梗塞や急性肝炎・アルコール性肝炎・溶血性疾患などで高値となります。
	ALT(GPT)	アラニンアミノトランスフェラーゼ (グルタミン酸ピルビン酸トランスアミナーゼ)	男性:10~42 女性:7~23	U/L	肝炎や肝硬変・脂肪肝・アルコール性肝炎などで高値となります。
	LD(IFCC)	乳酸脱水素酵素	124~222	U/L	肝臓病・心筋梗塞・悪性腫瘍・溶血性疾患などで高値となります。
	ALP(IFCC)	アルカリフォスファターゼ	38~113	U/L	肝臓・胆道・骨・胎盤・小腸などに障害があると高値となります。
	LAP	ロイシンアミノペプチターゼ	30~70	U/L	肝炎・肝硬変・胆石症・胆のう炎などで高値となります。
	CHE	コリンエステラーゼ	男性:240~486 女性:201~421	U/L	脂肪肝などで高値、慢性肝炎・肝硬変・悪性腫瘍・栄養不足などで低値となります。
	γ-GT (γ-GTP)	γグルタミルトランスペプチターゼ	男性:13~64 女性:9~32	U/L	アルコール・薬物の摂取や肝炎・閉塞性黄疸・胆汁うっ滞などで高値となります。
	T-Bil	総ビリルビン	0.4~1.5	mg/dL	肝臓や胆道・溶血性疾患などの疾患で高値となります。
	D-Bil	直接ビリルビン	0.4以下	mg/dL	肝炎・閉塞性黄疸・胆汁うっ滞などで高値となります。
心機能	CK(CPK)	クレアチンキナーゼ (クレアチニンフォスフォキナーゼ)	男性:59~248 女性:41~153	U/L	骨格筋や心筋、平滑筋、脳に存在して急性心筋梗塞・筋疾患などで高値となります。
	BNP	脳性ナトリウム利尿ペプチド	18.4以下 ※1	pg/mL	心筋梗塞や心不全のような心臓に負担がかかった状態や腎機能低下などで高値となります。
腎機能	UA	尿酸	男性:3.7~7.0 女性:2.6~5.5	mg/dL	高値では痛風の危険因子となります。
	BUN	尿素窒素	8~20	mg/dL	腎機能の障害、腎不全などで高値となります。
	Cre	クレアチニン	男性:0.65~1.07 女性:0.46~0.79	mg/dL	腎機能の障害などで高値となります。
電解質	Na	ナトリウム	138~145	mmol/L	脱水症・腎機能障害で異常となります。
	K	カリウム	3.6~4.8	mmol/L	腎機能障害などで高値、下痢・嘔吐などで低値となります。
	Cl	クロール	101~108	mmol/L	脱水症・腎機能障害などで高値、慢性腎不全などで低値となります。
	Ca	カルシウム	8.8~10.1	mg/dL	悪性腫瘍・副甲状腺機能亢進症などで高値、腎機能障害・副甲状腺機能低下症などで低値となります。
	P	無機リン	2.7~4.6	mg/dL	腎不全・副甲状腺機能低下症などで高値、副甲状腺機能亢進症・ビタミンD欠乏症などで低値となります。
	Mg	マグネシウム	1.8~2.4	mg/dL	腎機能障害などで高値、吸収不良症候群などで低値となります。
炎症	CRP	C反応性蛋白	0.0~0.14	mg/dL	炎症時に増加する蛋白の一つです。感染症・自己免疫疾患・手術後・悪性腫瘍などで高値となります。

	検査項目	名称	基準値	単位	説明
脂質	T-CHO	総コレステロール	142～248	mg/dL	コレステロールの総量。高値では動脈硬化・心筋梗塞などの危険因子となります。
	TG	中性脂肪	149以下	mg/dL	中性脂肪の量。高値では動脈硬化・心臓病・脳卒中などの危険因子となります。食後高値となります。
	HDL-C	高比重コレステロール	40以上	mg/dL	善玉コレステロールと呼ばれ、低値になると動脈硬化になりやすくなります。
	LDL-C	低比重コレステロール	139以下	mg/dL	悪玉コレステロールと呼ばれ、高値では動脈硬化になりやすくなります。
膵臓	AMY	アミラーゼ	44～132	U/L	膵臓・唾液腺の機能を調べるための検査です。膵炎や耳下腺炎などで高値となります。
	リパーゼ	リパーゼ	13～55	U/mL	脂肪を分解する消化酵素で、急性・慢性膵炎などの膵疾患で高値となります。
血算	WBC	白血球	3.3～8.6	$10^3/\mu\text{L}$	血液の細胞成分の一つで、病原菌などから体を防御します。さらに好中球、リンパ球、単球、好酸球、好塩基球に分類されます。細菌感染や炎症で高くなります。血液疾患では増減します。
	RBC	赤血球	男性:4.35～5.55 女性:3.86～4.92	$10^6/\mu\text{L}$	赤血球は血液の細胞成分のひとつです。ヘモグロビンは赤血球に含まれるたんぱく質で、全身に酸素を送ります。ヘマトクリットは血液中に含まれる赤血球の割合です。これらが低い時は貧血、多い時は多血症といえます。
	Hb	ヘモグロビン (血色素)	男性:13.7～16.8 女性:11.6～14.8	g/dL	
	Ht	ヘマトクリット	男性:40.7～50.1 女性:35.1～44.4	%	
	MCV	平均赤血球容積	83.6～98.2	fL	
	MCH	平均ヘモグロビン量	27.5～33.2	pg	
	MCHC	平均ヘモグロビン濃度	31.7～35.3	g/dL	
	PLT	血小板	158～348	$10^3/\mu\text{L}$	
血液像	Neu	好中球	38.3～74.7	%	
	Ly	リンパ球	21.2～51.0	%	ウイルス感染で増加します。免疫機能に関わります。
	Mo	単球	2.7～8.0	%	免疫や炎症に関わります。病原体の消化をします。結核や感染症で増加します。
	Eo	好酸球	0.2～8.4	%	アレルギー反応に関わります。花粉症や寄生虫で増加します。
	Ba	好塩基球	0.2～2.0	%	アレルギー反応に関わります。
凝固	PT	プロトロンビン時間活性	80.0～100.0	%	出血した時の血液の止まり具合を調べる検査です。(凝固機能) 秒数が長い時は凝固機能低下が考えられます。抗凝固剤の使用で長くなります。PT-INRは経口凝固剤による治療を判定に用いられている指標です。PTは肝臓の機能も関係します。
	APTT	活性化 プロトロンビン時間	24.0～34.0 ※1	秒	
	Fib	フィブリノーゲン	200～400	mg/dL	止血に必要なタンパク質です。感染や炎症で増加します。
	FDP	フィブリン・ フィブリゲン分解産物	5.0以下	$\mu\text{g/mL}$	FDPは血管内で血栓ができた時に、それを溶かす作用でできた物質です。 DダイマーはFDPのうちの1種類です。
	Dダイマー	Dダイマー	1.0以下	$\mu\text{g/mL}$	心筋梗塞・脳梗塞・深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症などの血栓ができた時に高くなります。

	検査項目	名称	基準値	単位	説明
鉄	Fe	血清鉄	44~188	μg/dL	血液中の鉄量。鉄欠乏性貧血や出血・感染症などで低値となります。
	UIBC	不飽和鉄結合能	男性:170~250 女性:180~270	μg/dL	貧血があるかどうか推測します。鉄欠乏性貧血などで高値、感染症などで低値となります。
	フェリチン	フェリチン	男性:21~282 女性:5~157	ng/mL	貯蔵鉄のことです。感染症などで高値、鉄欠乏性貧血などで低値となります。
糖代謝	血糖	血糖	73~109	mg/dL	血液中のブドウ糖の量を示し、食後に上昇します。糖尿病の診断や血糖コントロール指標に用いられます。
	HbA1c	ヘモグロビンA1c	4.9~6.0	%	ヘモグロビンに糖が結合したもので、過去1~2ヶ月間の平均血糖値を反映します。糖尿病の診断や血糖コントロール指標に用いられます。2012年4月1日から国際標準であるNGSP値に変わりました。
	グリコアルブミン	グリコアルブミン	11.0~16.0	%	アルブミンに糖が結合したもので、過去1~2週間の平均血糖値を反映します。血糖コントロール指標に用いられます。
	1,5-AG	1,5-アンヒドロ-D-グルシトール	14以上	μg/mL	糖代謝の急激な変化を示します。高血糖の場合、尿中に排泄されるため血中濃度は減少します。特に食後の血糖コントロール指標に用いられます。
甲状腺	TSH	甲状腺刺激ホルモン	0.50~5.00	μIU/mL	下垂体前葉から分泌され、甲状腺ホルモンの分泌を調整しているホルモンです。甲状腺機能亢進症で減少し、甲状腺機能低下症で上昇します。
	F-T3	遊離トリヨードサイロニン	2.30~4.30	pg/mL	甲状腺から分泌されるホルモンの一種で、甲状腺機能亢進症で上昇し、甲状腺機能低下症で減少します。
	F-T4	遊離サイロキシン	0.90~1.70	ng/dL	甲状腺から分泌されるホルモンの一種で、甲状腺機能亢進症で上昇し、甲状腺機能低下症で減少します。
腫瘍マーカー	CEA	癌胎児性抗原	5以下	ng/mL	腺癌のスクリーニング検査や腫瘍の診断、治療の経過観察に用いられます。再発や転移の早期発見にも重要です。種々の悪性腫瘍で上昇し、喫煙、加齢でも高値になることがあります。
	AFP	α-フェトプロテイン	20以下	ng/mL	主に、肝細胞癌で上昇します。また、肝炎や肝硬変などでも上昇します。
	T-PSA	前立腺特異抗原	4以下	ng/mL	前立腺癌の診断、治療経過観察に用いられます。また、前立腺肥大症、前立腺炎などでも高値になります。
	CA19-9	糖鎖抗原19-9	37以下	U/mL	消化器系がん、特に膵癌、胆道癌で上昇するほか、良性疾患(肝胆膵疾患、婦人科疾患、糖尿病など)でも上昇することがあります。早期発見には有用性が低いですが、治療効果を調べる場合に役立ちます。
	CA15-3	糖鎖抗原15-3	30以下	U/mL	乳癌のスクリーニング検査や手術後の経過観察に用いられます。加齢とともにやや上昇します。
	CA125	糖鎖抗原125	35以下	U/mL	卵巣癌や子宮癌などに有用で、治療効果の判定や再発予測の手段としても重要です。ただし、卵巣以外の癌でも上昇し、妊娠初期や月経時、閉経前などに一過性の上昇がみられます。
	SCC	扁平上皮癌関連抗原	1.5以下	ng/mL	子宮頸管部や肺、食道などの扁平上皮癌を診断するのに用いられ、治療効果の判定や経過観察にも有用です。
感染症	RPR	脂質抗体	(-) 1.00未満	R.U.	梅毒に感染しているかを調べる検査です。2つの検査を組合せて総合的に判断します。
	TP	TP抗体	(-) 10未満	T.U.	
	HBs抗原	HBs抗原	(-) 0.05未満	IU/mL	B型肝炎の感染の有無、治療効果の判定に用いられます。
	HCV抗体	HCV抗体	(-) 0.90未満 ※1	COI	C型肝炎の感染の有無、治療効果の判定に用いられます。
	HIV抗体	HIV抗体	(-) 1.00未満	COI	HIV感染の有無を調べます。

※1 2023.8.1より基準範囲変更